

三重県工業研究所

世界に誇る日本の「ものづくり」を 支援する競輪補助事業

今回は三重県津市にある三重県工業研究所を訪問。主に中小企業を対象とした技術研究や依頼試験、機器開放、人材育成など幅広いサポートを行っています。

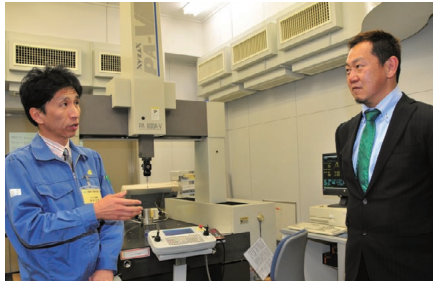
こちらの研究所には、低炭素エネルギー技術と次世代自動車の研究を行う「プロジェクト研究課」、電子機械等の製造業に対応する「ものづくり研究課」、地域の産物を活用する「食と医薬品研究課」があり、また桑名市に金属研究室、四日市市に窯業研究室、伊賀市には窯業研究室伊賀分室が置かれ、県内4カ所で開催されています。



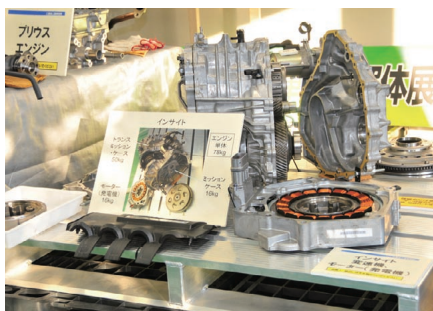
津市にある三重県工業研究所を訪ね、施設についてお話を伺う萩原操選手。



「全国的に見ると大規模な研究所ではありませんが、小さいながらも特徴を持って、他県にない研究などもしながら地域の活性化や中小企業さんを支援して行ければ」と河合真所長。



機器の見学では、工業製品のひとつである自転車のフレームやギアに例えて興味深そうに質問をされていた萩原選手。



研究所が重点をおいているプロジェクトでもある次世代自動車、ハイブリッドカーの分解展示。



コンバートEV(改造電気自動車)の見学も実施中。

補助事業を受けて導入された表面粗さ・輪郭形状複合測定機。

今回三重県津市にある三重県工業研究所を訪問。主に中小企業を対象とした技術研究や依頼試験、機器開放、人材育成など幅広いサポートを行っています。

平成21年度の競輪補助事業で導入された「表面粗さ・輪郭形状複合測定機」は、測定面を触針でトレースし、表面の粗さと輪郭形状を測定する装置。機械の加工部品などの形状が正確に、きれいにできているかどうかを調べるための機器で、測定単位は1ミクロン(1000分の1ミリ)だとか。こういった繊細な測定機器が置かれた部屋は温度と湿度が厳密に管理され、床も外部からの振動が伝わりにくいように作られています。機器自体はもちろん、環境を整えるだけでも中小企業にとっては大きな負担

となることを考えると、やはりそれを支援する施設は必要不可欠です。

河合真所長は「中小企業さんといえどもそれぞれ工夫されてこれだけ精度のいい部品を作っておられる。日本の製品は品質がいいと言われるのはそこにあると思う。私たちはちょっとそのお手伝いをさせてもらっています」と話してくださいました。

また研究所では現在、次世代自動車への興味と理解を深めてもらうことを目的に、ホンダのインサイトとトヨタのプリウスという2種類のハイブリッド自動車の構成部品が見学できる分解展示を行っています。主には県内の製造業の方が対象ですが、一般の方でも見学可能だそうで、興味のある方はぜひ日本が世界に誇る「ものづくり」の片鱗に触れてみては。

今回同行して頂いた萩原操選手のインタビューは31ページに掲載しています。